

平等か公平か

札幌市立前田中学校 三年 坂田 美緒

私が友達と買い物をしているとき、ふと考えたことがありました。

税金は必要なのか。友達に話してみると、意外な答えが返ってきました。友達は、必要なのは前提としてそれが平等か公平かの方が気になると言うのです。私も普段からあるサービスの除雪や公共施設などは大切なので税金は必要だろうなとうすうす気付いてはいたのですが、税金が平等か公平かは考えたことがなく、興味が湧きませんでした。

家に帰ってから平等と公平の意味を調べてみました。平等は、元の状態に関係なく全てのものに等しくすることで、公平は、元の状態に合わせて全てのものを等しくすることだと分かりました。

これと税金を重ねて考えてみると、もし税金が平等ならば年収や家庭の環境など関係なく、全員から同じ額の税金を取ることになり、もし税金が公平なら年収や家庭の環境に合わせた額の税金を取ることになります。これだけで考えると、年収が多い人は給料から税金を多く取られるので税金は公平と言えるでしょう。しかし普段の買い物はどうでしょうか。どんなに貧しくても裕福でも、物を買う時の値段は変わりません。これは全員が同じ額を払うので平等と言えます。これから考えてもまだ税金は平等なのか公平なのか分かりませんでした。

そこで私は、別の視点から考えてみることにしました。今までは、同じ商品を買ったときに払う税金に着目していたけれど、年収が多くて裕福な人と年収が少ない人とは買う物も違うはずです。つまり、高額なものを購入した人には高い税がつき、低額だと低い税で大丈夫ということですが、これを言い換えると、元の値段に合わせて税の割合を等しくする。つまり公平と言えるのではないのでしょうか。収入につく税も公平、支出につく税も公平。これらの事実から、税金は公平であると理解することができました。

後日友達に伝えると、なるほどねと納得してくれました。

今までは、収入が違うのに物価は同じで不公平だと考えていたけれど、友達の一言からこんな新発見ができて、今までの不満のようなものが解決されたので、日常の中で思ったことをそのままにせず、深く考えて根拠のある自分なりの答えを出すのは成長につながるなと思いました。

これからも日常の色々なことに興味をもち、大人になるまでに、なってからも知識をためこみ、役に立てていきたいです。